

フリーテーマ

高齢者の外出手段について

Q 近年、高齢者の免許返納が求められていますが、デマンドバスでは市内を移動するのにも市役所で乗り継ぐ必要があり、非常に利用しにくい。高齢者が安心して外出できるよう改善をお願いします。

A 10月から、1市2町広域連携バス「ゆうがおバス」の運行が始まりました。今後、「ゆうがおバス」とも連携し、デマンドバスのより効率的な運行を検討していきます。

防災ラジオの配布について

Q 自治会長には防災ラジオが無償で配布されると聞いていますが、副会長や班長へも配布していただきたい。

A 防災ラジオは、80歳以上の方のみの世帯、自治会長、民生委員、消防団の幹部などに無償貸与します。その他の方への配布については、今後検討していきます。

水道整備事業について

Q 思川の表流水を導入する事業について、地下水100%の維持を望む市民の署名を提出しましたが、市民が望まないと思われる事業を見直す考えはありませんか。

A 「地下水に全面的に依存している現状から表流水への一部転換を促進し、地下水と表流水のバランスを確保する」という県の危機管理の考え方に賛同し、この事業に参加しています。今後も、市民の皆さまのご理解をいただけるよう丁寧に説明していきたいと考えています。

Q 表流水は農業地帯を流れてくることとなります。発がん性があるとされる農薬を含んだ水を飲んでも大丈夫なのですか。

A 川の水を飲料水にするためにはどのように浄水したらいいのかなど、県と協議し、検討していきます。

しもつけブランドのPRについて

Q 春なら天平の桜、夏は夕顔の花とふくべ、秋は大鍋と芋煮会、冬はイルミネーションなど、たくさんある市のブランド品を、市の公用車にフィルムを貼って宣伝してはどうか。

A 下野ブランドについて、市民でも知らない方がいると思いますので、PRの方法について検討します。

プラごみゼロ宣言について

Q プラごみを削減するために独自の条例を策定している自治体がありますが、今後の取り組みについて伺いたい。

A ごみの削減は、市民の皆さんの協力が必要ですので、どうすれば削減できるか皆で考え、取り組んでいきたいと考えています。また、子どもたちにごみ問題について教えるなど、長い目で見て、ごみの減量化につながる取り組みを行いたいと考えています。

就学時健診を利用した親学プログラムの実施について

Q 子どもが就学時健診を受けている時間を利用した親学プログラムの実施を希望していますが、実施できませんか。

※親学プログラムとは、保護者同士が話し合いと交流を通して子育てについて学ぶ学習プログラムです。

A 市では、就学時健診を保護者同伴で実施しています。個人情報に配慮するため、また、お子さんのアレルギーの有無や健康状態などの確認をスムーズに行うためには、やはり保護者同伴が必要であり、親学プログラムを実施できるほどのまとまった時間をとることは難しいのが現状です。

家庭教育の重要性は充分理解していますので、親学プログラムの周知や支援は、引き続き行っていきます。

地域包括ケアシステムの構築について

Q 超高齢社会の課題を解決するには、関係部署の連携が必要であるにもかかわらず、現状、高齢者のことは高齢福祉課、外出支援は安全安心課といった縦割り行政になっていますが、庁内全体を取りまとめる体制づくりの考えはありますか。

A 共生社会の実現にむけ、地域福祉計画を策定し、市役所全体で取り組んでいますが、自治会や民生委員の皆さまの情報力が重要だと感じています。行政や社協だけではなく、地域で活動されている市民の皆さまの意見や力をいただきながら進めていきたいと考えています。



市長に質問する出席者

バス路線の拡充と古い道路の整備について

Q 小金井駅を起点としたバスの路線を拡充し、東の飛鳥のプロジェクトと抱き合わせて発展させていただきたい。また、古い道路を改良して、高齢者も歩ける歩道にさせていただきたい。

A 小金井駅を起点に、尼寺や天平の丘公園を活用して周遊できるように、さらなる事業展開を検討していきます。また、道路については情報をお寄せいただき、修繕を進めます。

地下水と雨水について

Q 地下水の保全のためには雨水を利用していくことが重要と考えますが、市の施設で、雨水の貯留槽を用いた施設はありますか。

A 市役所の庁舎で、雨水をトイレの水として利用しています。